

かんぼけんぶんろく
環保研聞録

~I-RIEP Journal~ 第16号

2018年11月

「岩手県環境保健研究センター」では、県民の皆様の健康といわての環境を守るため、健康・環境に関する科学的・技術的拠点として、次のような業務に取り組んでいます。

- 1 県民の皆様の健康や環境に被害のおそれがある場合の対応
- 2 健康と環境を守るための試験検査・監視測定
- 3 行政の課題に対応した調査研究
- 4 技術支援・情報発信・研修指導

広報誌「環保研聞録~I-RIEP Journal~」では「環保研（かんぼけん）センター」の取組や健康・環境に関する情報を定期的にお届けしています。

医薬品・危険ドラッグ分析について（衛生科学部）

衛生科学部では、食品の残留農薬などの検査の他に、医薬品や健康食品について以下の試験検査を行っています。

1 医薬品の規格検査

保健所が収去した市場流通している医薬品の溶出試験や有効成分の定量試験により規格検査を行っています。



溶出試験機（医薬品検査）

2 無承認無許可医薬品検査

無承認無許可医薬品とは、医薬品成分やその類似成分が含有されているにもかかわらず、承認や許可を得ずに健康食品等として輸入・製造・販売されている製品をいいます。

当センターでは、主に強壮や瘦身の効果を謳って販売されている健康食品について、ED治療薬成分（シルデナフィルなど6成分）や、やせ薬成分（シブトラミンなど4成分）の含有を検査しています。

3 危険ドラッグ検査

数年前に大きな社会問題となった危険ドラッグ成分は、その殆どが医薬品医療機器等法により指定薬物として指定されました。当センターでは、指定薬物を中心に746成分を分析しています。

近年は健康志向の高まりから数多くの健康食品が販売されていますが、中には前述のような製品もあり国内でも死亡例を含む健康被害が多く発生しているので注意が必要です。

医薬品や健康食品に関する最新情報は厚生労働省HPで確認できますので是非ご覧ください。



GC-MS（危険ドラッグ検査）

Check!

○厚生労働省HP「医薬品・医療機器」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iyakuhin/

注目すべき感染症（風しん） —ワクチンで予防しましょう— （保健科学部）

風しんは、風しんウイルスによって引き起こされる急性の発疹性感染症で、飛沫などによりヒトからヒトへ感染します。風しんウイルスの感染力はインフルエンザウイルスの2~4倍といわれ、感染力が強いことから**ワクチン接種が最も重要な予防方法**です。1歳児と小学校入学前1年間の定期予防接種を徹底し感染の機会をできるだけ低くしましょう。

全国では、今年7月下旬以降、関東地方を中心に風しん患者が増え始め、11月11日現在で2,032人となり、既に昨年1年間（93人）の22倍の報告数になっています（図1）。

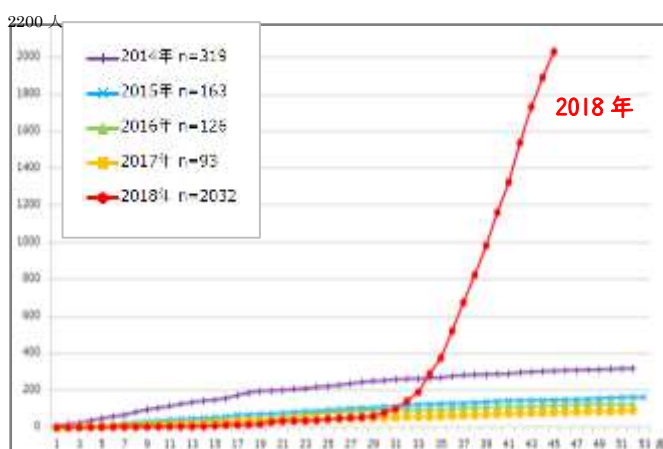


図1 全国の風しん患者累積報告数

(2014~2018年第45週、国立感染症研究所発表)

患者の96%が大人で、特に30~50代の男性が多くを占めています（図2）。国の調査によると、この年代の男性で風しんの抗体価が低い人が2割程度いるとの報告があり、感染拡大の要因となっています。子どもへの予防接種が行われるようになり、最近の流行は、風しんに対する免疫が十分でない**働きざかりの大人が中心**であることから**職場での風しん予防対策が重要**です。

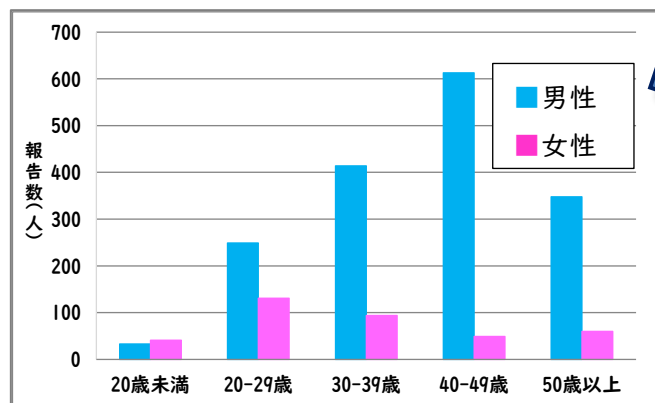


図2 年齢別風しん患者報告数(2018年第1~45週)

風しんで最も心配なことは、抗体を持っていない妊婦が妊娠20週頃までに感染した場合、ウイルスが胎児に感染し**先天性風しん症候群(CRS)**※とよばれる眼や耳、心臓に障害を持った赤ちゃんが生まれる可能性が高くなることです。

妊婦は、予防接種を受けられないため、抗体を持っていない、あるいは抗体価が低い場合は、風しんが発生している地域では可能な限り外出を避け、人混みを避けるなど風しんにかからないよう注意する必要があります。

※先天性風しん症候群(CRS)

- ✓ 3大症状：白内障、難聴、先天性心疾患
- ✓ 発生頻度：妊娠1か月-50%以上、
2か月-35%、3か月-18%、4か月-8%

妊娠を希望する女性や妊婦の同居家族の方は抗体検査を受け、抗体価が低い場合はワクチン接種を検討しましょう。

岩手県では、①妊娠を希望する女性、②その配偶者、③風疹の抗体価が低い妊婦の配偶者を対象に**風しん抗体検査を無料で実施**しています。検査を実施している医療機関等詳しいことは県HPで確認することができます。

Check!

○平成30年度岩手県風しん抗体検査事業
<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/fuushin/025139.html>

大人の風しんは、赤ちゃんにも影響することから、**風しんの罹患歴や予防接種歴が明らかでない方は、生まれてくる赤ちゃんのために積極的に抗体検査、ワクチン接種を検討**しましょう。

Check!

○岩手県感染症情報センター
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/index.html>
 ○国立感染症研究所
 「風しん急増に関する緊急情報(2018年)」
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubella-m-111/rubella-top/2145-rubella-related/8278-rubella1808.html>

水質事故の防止について (環境科学部)

「水質事故等」とは、事故等により油類や有害物質等が河川等へ流入し、河川等においての、油膜の発生や、魚などの水生生物が死亡する等の異常がみられることをいいますが、岩手県内では毎年60～90件程度の水質事故等が発生しています。

環境科学部では、水質事故等が発生した場合に、県庁環境保全課や県振興局等と連携し、原因究明や安全確認のための水質調査を行っています。水質事故等の中には、農薬や化学物質等が原因と考えられる事例もあり、近年の水質調査では、GC-MSやICP-MSといった測定装置を使用し、農薬、消毒剤等に含まれる化学物質、重金属、シアン等を分析しました。



農薬等の測定装置 (GC-MS)



重金属の測定装置 (ICP-MS)

水質事故等のうち、これから冬に向かって寒さが厳しくなっていく中で特に注意したいのが、「油流出」です。水質事故等の原因で最も多いのが、灯油や重油などが流出する「油流出」で、毎年全体の7～8割程度を占めています。このうち、パイプの破損やホームタンクから給油中にその場を離れたことなど、「管理不備」や「操作ミス」が原因であることが多くなっています。油が流出した側溝の清掃や土壌の除去等の処理には多くの費用を要し、処理に要する経費は原因者の負担となります。タンクを設置している一般家庭や事業所では、タンクや配管の点検はこまめに行い、給油時には目を離さないなど、水質事故等の防止について、ご協力をよろしく申し上げます。

岩手県内の水質事故の状況は以下のページで確認できます。

<http://www.pref.iwate.jp/kankyohozen/suishitsu/47603/047600.html>

今年のブナの実なりについて (地球科学部)

当センターでは、ツキノワグマの出没に関する注意報発表の判断に資するために、北奥羽地域において、出没に関係していると考えられる、ブナの豊凶調査を毎年実施しています（北奥羽地域9ヶ所、ブナ300本以上）。

この地域における平成29年度のブナの着果指数は1.09と不作でしたが、今年度は2.85と並作の結果となりました。（図3）

岩手県では毎年ツキノワグマによる人身被害が発生しています。入山する際は十分に注意して入りましょう。

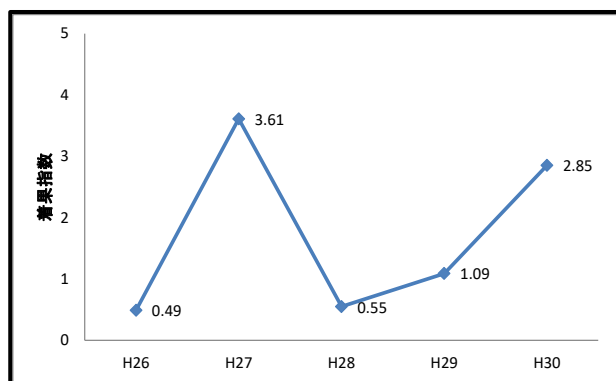


図3 北奥羽地域のブナの着果指数



写真 ブナのクマ棚

Check!

ブナのクマ棚とはクマがブナの実を食べるために自分の手元に枝を折って、棚のようにできたものです。



「一般公開」と「温暖化防止フェア」について (企画情報部)

1 環境保健研究センター一般公開

平成30年10月6日(土)、当センターを会場に、年に一度の「一般公開」を開催しました。あいにくの曇り空が続く一日でしたが、昨年を超える多くの皆様に御来場いただきました。

当日は、「体験で健康・環境を楽しく学ぼう！」をテーマに、当センターが行っている様々な業務内容や役割について体験コーナーや展示を通じて知っていただく機会となりました。



水生生物を学ぶ「釣りコーナー」



初登場！的当てビンゴゲーム

2 いわて温暖化防止フェア

平成30年10月13日(土)・14日(日)、イオンモール盛岡で開催の「いわて温暖化防止フェア」に参加し、当センターの温暖化に関わる業務・研究を紹介しました。

出展ブースでは、地球温暖化の原因となる物質である二酸化炭素(CO₂)についての簡単な実験コーナーを設置したほか、温暖化の指標の一つとして研究を続けてきた、ヒトスジシマカに関するパネル展示を行い、ヒトスジシマカの生息状況といわての温暖化の関係をお知らせしました。



【編集後記】

今年の「環境保健研究センター一般公開」は、昨年よりも多くの皆様にお越しいただくことができ、職員一同喜んでおります。来年も皆様にお喜びいただけるような内容にしたいと考えております。

《編集・発行》岩手県環境保健研究センター 企画情報部

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡一丁目 11-16

TEL 019-656-5666 FAX 019-656-5667

メール: CC0019@pref.iwate.jp

ホームページ <http://www.pref.iwate.jp/kanhoken/>

